

サカティンクス株式会社

長期ビジョン

SAKATA INX VISION 2030

1. はじめに
2. 沿革
3. 過去10年のあゆみ
4. 事業環境認識と戦略の方向性
5. SAKATA INX VISION 2030
6. 2030年に向けて目指す姿
7. 各事業の取り組み
8. ESG・サステナビリティへの取り組み

1. はじめに

サカタインクスグループは、1896年の創業から今年で125年を迎え、これまで着実に成長してまいりました。しかし近年、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しております。デジタルメディアの急激な普及や、環境対応へのニーズがより一層高まるなど、今後さらに非連続的な変化が起こりえる状況にあります。

その一方で、企業はステークホルダーの皆様方から、事業面での利益追求だけではなく、社会面での課題解決にも積極的に取り組むことが求められており、当社グループも例外ではありません。

このような事業環境の変化の中で、当社グループが生き残り、世の中から求められる企業として持続的に成長していくためには、常に柔軟性をもって、長期的な視点に立って、将来のあるべき姿と、そこに至る道筋や施策を策定し、それらを当社グループ全体で共有・推進していくことが重要です。

この度、当社グループが目指す将来の姿と、進むべき方向性を明確に示した、2030年を見据えた長期ビジョンと成長戦略、

『SAKATA INX VISION 2030』

(Create and Innovate, Care for the Earth, Color for Life,
“あなたと、つくる、価値ある、あした”) を策定しました。

当社の企業理念である、「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」をビジネステーマに、「人々の暮らしを快適にする情報文化の創造」を存在意義として、新規市場の開拓やこれまでの事業分野を

越えた新規事業の創出など“新たな挑戦”と社内改革の実現を積極的に推進してまいります。それと同時に、世界全体の共通アジェンダとなった“SDGs”にうたわれている、地球環境をはじめとした様々な課題にも取り組み、サステナブルな社会の実現に貢献していきながら、ESG経営を実践します。さらには、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と、資本コストを意識した、経営資源の最適化に努め、企業価値の一層の向上に取り組んでまいります。

当社がこの先、永続的に発展していくために、まずは次の10年をその礎としなければなりません。そのためには、当社グループ一丸となって目標達成に向けて突き進んでまいります。お客様や仕入先様、株主様をはじめとしたステークホルダーの皆様方と共に新たな歴史を築いてまいりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員

森田 耕太郎



2. 沿革

【創成期】 創業から近代化の時代へ

1896年 個人商店(阪田インキ製造所)として大阪で創業、新聞インキの製造・販売を開始



阪田恒四郎(創業者)

1905年 本格的な新聞インキ製造工場(旧福島工場)稼働

1906年 社名を「阪田インキ製造所」から「阪田商会」に改称

1959年 近代的な総合工場(現・大阪工場)を建設



兵庫県伊丹市

1960年 海外初の駐在所をフィリピンに開設

1969年 野田工場(現・東京工場)稼働



千葉県野田市

【成長期】 国内の業績伸長と海外への積極展開へ

1979年 海外初のインキ生産拠点を台湾に設立

1987年 欧州に進出

1987年 社名をサカタインクス(株)に改称

1988年 北米に進出



アメリカ・シカゴ

1989年 インドネシアに進出

1992年 サカタインクスインターナショナル株式会社を設立(1998年7月シークス(株)に改称)

1993年 環境に配慮した大豆油ベースのオフセットインキ上市

1995年 インド、中国に進出



インド・ニューデリー 中国・広東省

【成熟期と変革の未来へ】 環境・品質・安全への対応 海外展開のさらなる強化へ

1996年 ISO9001認証取得

2001年 ISO14001認証取得

2003年 ベトナムに進出



ベトナム・ホーチミン

2008年 OSHMS認定取得

2014年 滋賀工場稼働



滋賀県米原市

2016年 南米(ブラジル)に進出

2016年 ボタニカルインキ(植物由来の材料一部使用)シリーズの展開開始

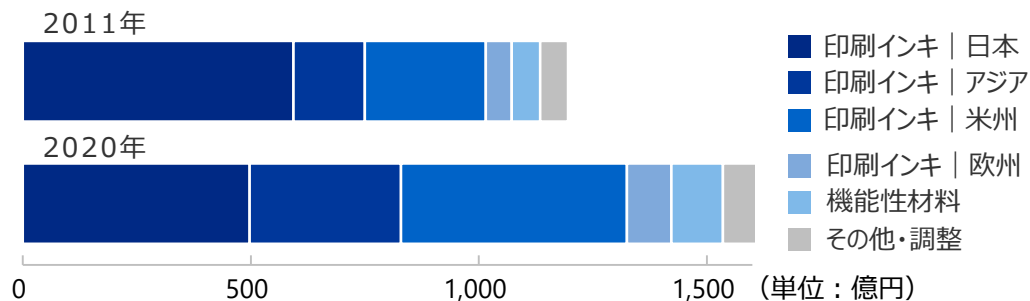


2021年 長期ビジョン
SAKATA INX VISION 2030
スタート

3. 過去10年のあゆみ

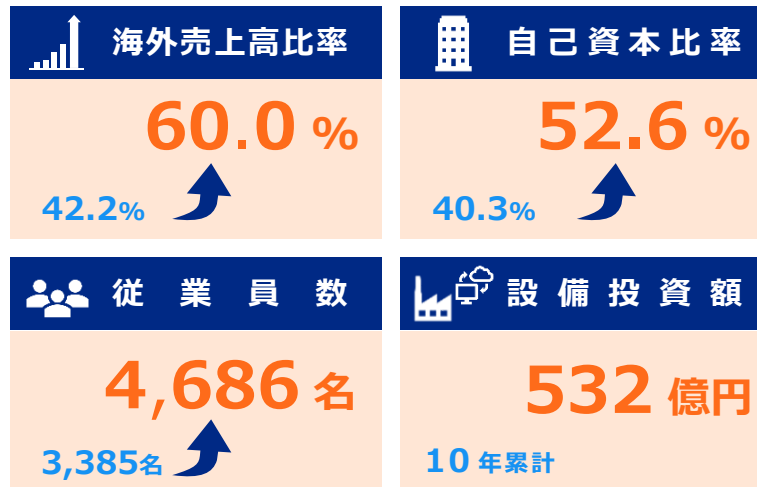
売上高

2011年 **1,195** 億円 → 2020年 **1,615** 億円

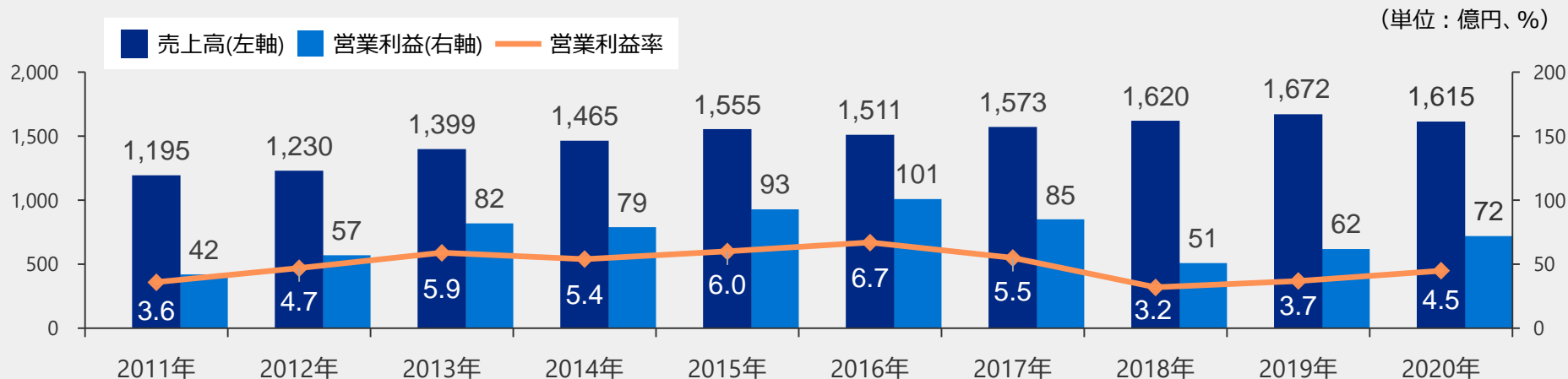


■ 全体 ▶ 約 **1.4** 倍 ■ 米州 ▶ 約 **1.9** 倍
 ■ アジア ▶ 約 **2.1** 倍 ■ 機能性材料 ▶ 約 **1.9** 倍

数字で見る成長（2011年 → 2020年）



売上高、営業利益、営業利益率の推移



※ 2015年は決算期変更により、過去の各社の決算を基礎として、2016年以降の12月期決算と同期間を連結対象として調整した数値です。

4. 事業環境認識と戦略の方向性

事業環境変化

国内・海外での市場・競争環境変化

- 紙離れによるインキ需要の低迷
- 新興国市場における競争の激化
- 脱プラスチック等環境対応ニーズの変化と高まり

デジタル化によるバリューチェーンの変化

- デジタル媒体の大幅な増加
- 印刷の多様化・カスタマイズ化

環境制約・社会課題への対応

- 長期的なサステナビリティ配慮、SDGsに向けた取り組みの重要性の高まり
- 資源制約・原料価格高騰リスクの高まり
- ESG投資の影響力増大

戦略の方向性



5. SAKATA INX VISION 2030

企業理念（マインド イン マインド）

ビジネステーマ
ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造

存在意義
人々の暮らしを快適にする情報文化の創造

ビジョン

Create and Innovate, Care for the Earth, Color for Life
あなたと、つくる、価値ある、あした

新たな領域への挑戦によって“イノベーション”を生み出し、“地球”にやさしい技術で、“人生”を快適かつ豊かに彩り、世界中に笑顔があふれる未来を創る企業

戦略の方向性

印刷インキ・
機能性材料事業の拡大

地球環境と地域社会を重視した
ESG・サステナビリティの取り組み強化

新しい事業領域への挑戦

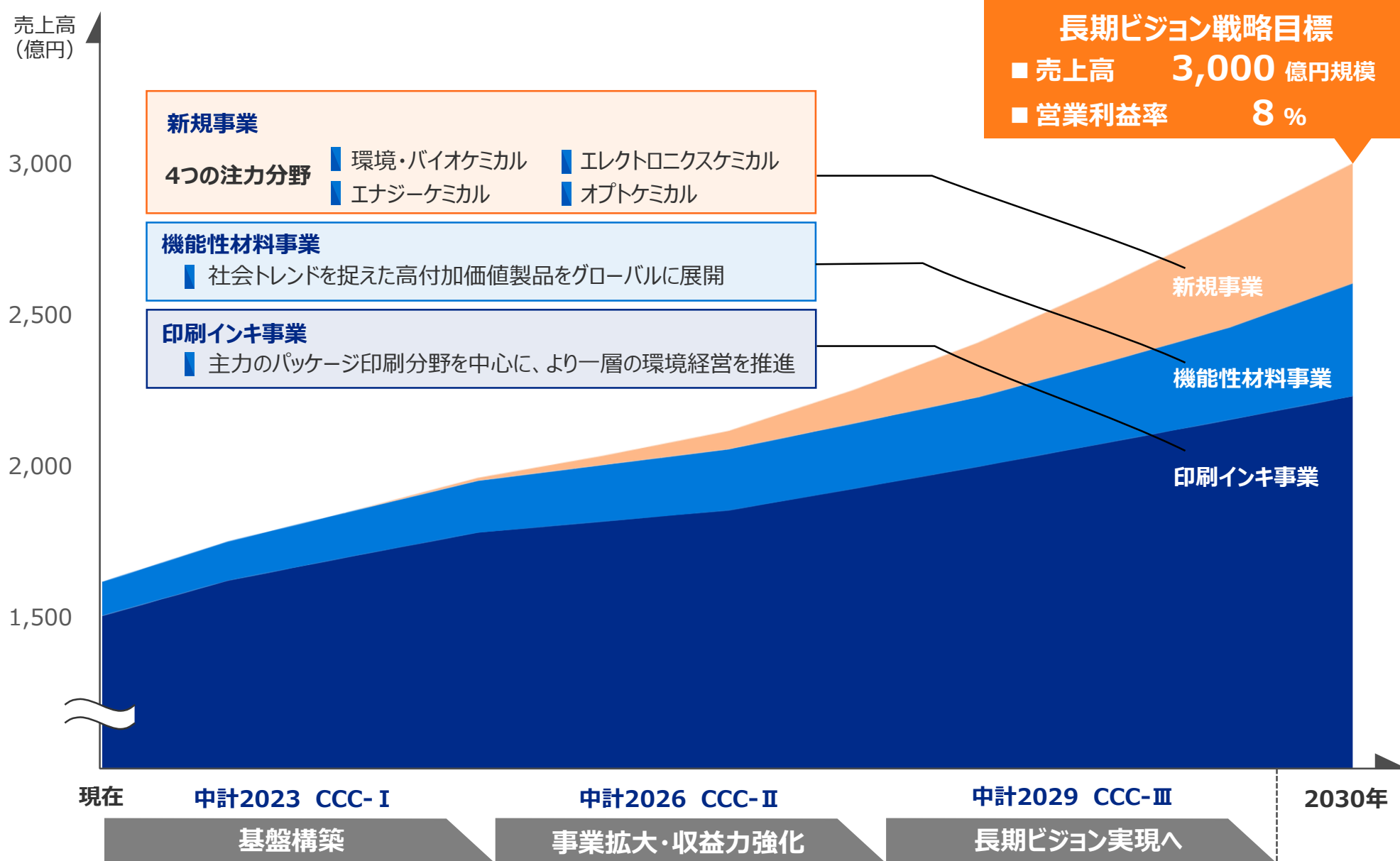
変革プロジェクト

グローバル連結経営の
さらなる強化

ステークホルダーとの関係強化

人材育成の強化
組織風土の改革

6. 2030年に向けて目指す姿



7. 各事業の取り組み 既存事業

印刷インキ事業

2030

パッケージ印刷分野 / 情報メディア印刷分野



- 環境経営の推進
- バリューチェーン全体の強化
- グローバルパートナーとの関係強化
- 高付加価値製品の開発と展開
- 国、事業をまたいだ最適経営の強化
- 成長市場・新規市場へ経営資源の投入

機能性材料事業

2030

インクジェット印刷分野 / ディ스플레이関連分野



- 社会トレンドを捉えた高付加価値製品をグローバルに展開
- グローバルでのさらなる連携強化
- 各市場での販売・収益力強化、ブランド力の向上

7. 各事業の取り組み 新規事業

戦略キーワード：安全安心、便利快適、健康維持、低炭素社会、サステナビリティ

当社が目指すこと

人々の快適な暮らしへの貢献



持続可能な社会の実現



注力分野

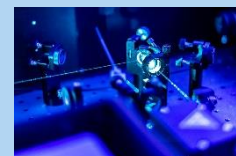
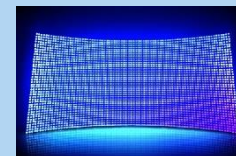
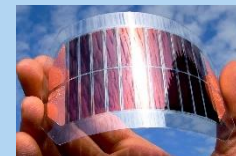
環境・
バイオケミカル

エナジーケミカル

エレクトロニクス
ケミカル

オプトケミカル









ターゲット領域



オープンイノベーション&リーンスタートアップ

当社コアコンピタンスの活用により社会課題に対応

8. ESG・サステナビリティへの取り組み

社会 課題	 温室効果ガス	 気候変動	 廃棄物	 食品ロス
	 プラスチック海洋汚染	 リスクガバナンス	 人権尊重	 ジェンダー平等

重要課題（マテリアリティ）

目指す社会

SDGs

持続可能な地球環境を維持するための活動	地球環境を保護し、人々に安全と健康を
安心・安全な製品の供給	快適さ、利便性ととも、循環型社会の実現を
研究開発・技術力の強化	豊かな生活、新しいライフスタイルの創造を
コーポレートガバナンス、コンプライアンスの強化	ステークホルダーとの良好な信頼関係を
人権の尊重、ダイバーシティの推進	人権、人格、多様性を尊重し、働きやすい労働環境を



8. ESG・サステナビリティへの取り組み

E: 環境

環境配慮型製品比率の向上

■ ボタニカルインキ

植物由来成分を含有し、CO2排出抑制に貢献
ボタニカル度の向上に向けて、研究開発を推進



生産活動における環境負荷の低減

■ 太陽光発電導入とエネルギー消費量削減

滋賀工場、東京工場への太陽光発電システム導入



滋賀工場 太陽光第一・第二発電所

GHG50%削減 ※
TCFDへの早期賛同とリスク開示

2030

※日本国内のScope1&2における2013年度比の削減目標

S: 社会

働きやすい労働環境

■ 多様な勤務制度

テレワーク制度の導入
ワークライフバランスの推進



■ 健康経営推進

サカタインクス健康経営宣言

国内女性管理職比率15%以上
育休取得率100%

2030

G: ガバナンス

コーポレートガバナンス強化

■ 役員構成や経営会議の多様化

社外取締役・女性取締役の参画
海外現地法人役員との戦略会議



■ 内部統制システムの整備

政策保有株式の縮減
リスクマネジメントの強化

2030

SAKATA INX...

Visual Communication Technology



サカティンクス株式会社

中期経営計画 2023

CCC-I

2021年3月1日

1. 前中期経営計画2020の振り返り

2. 中期経営計画2023 **CCC-I**

CCC-I : 今中計を長期ビジョン『SAKATA INX VISION 2030』の「第一期・フェーズI」とし、長期ビジョンのキャッチフレーズ「**C**reate and Innovate, **C**are for the Earth, **C**olor for Life」の頭文字から、CCC-Iと表記しました。

1. 前中期経営計画2020の振り返り

売上高・利益比較

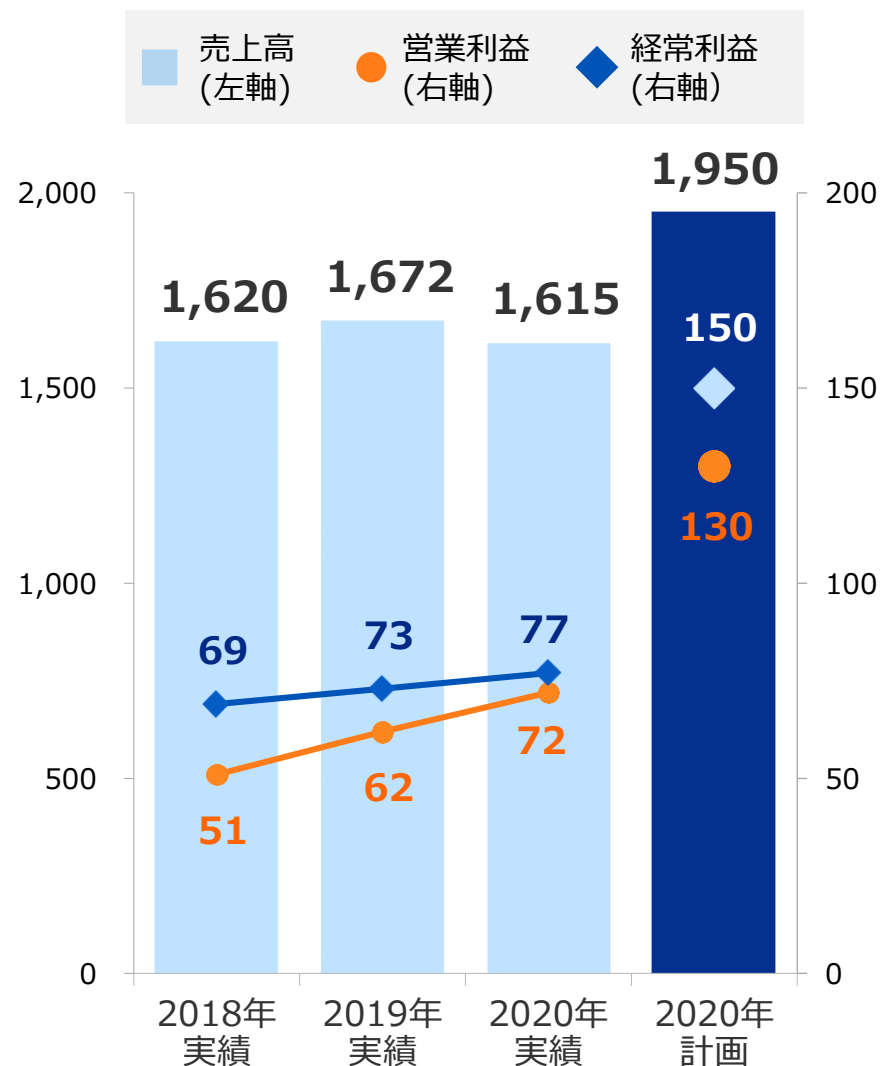
	2020年計画	2020年実績
売上高	1,950 億円 為替要因除く	1,615 億円 1,691 億円
営業利益	130 億円	72 億円
経常利益	150 億円	77 億円
R O E	10 %以上	6.9 %
為替レート	112 円/ドル	106.82 円/ドル

未達要因：外部環境の激変

- デジタル化進展に伴う印刷情報関連の需要減
- アジアの政治・経済情勢の変化による販売不振
- 円高による為替換算の影響
(USドル 計画 112円 → 実績 106.82円 △4.6%)
- 原材料価格高騰
- 新型コロナウイルス感染症のパンデミック
→ 景気の急減速/情報メディア・機能性材料の需要減

■ 連結売上高・利益比較

(単位：億円)

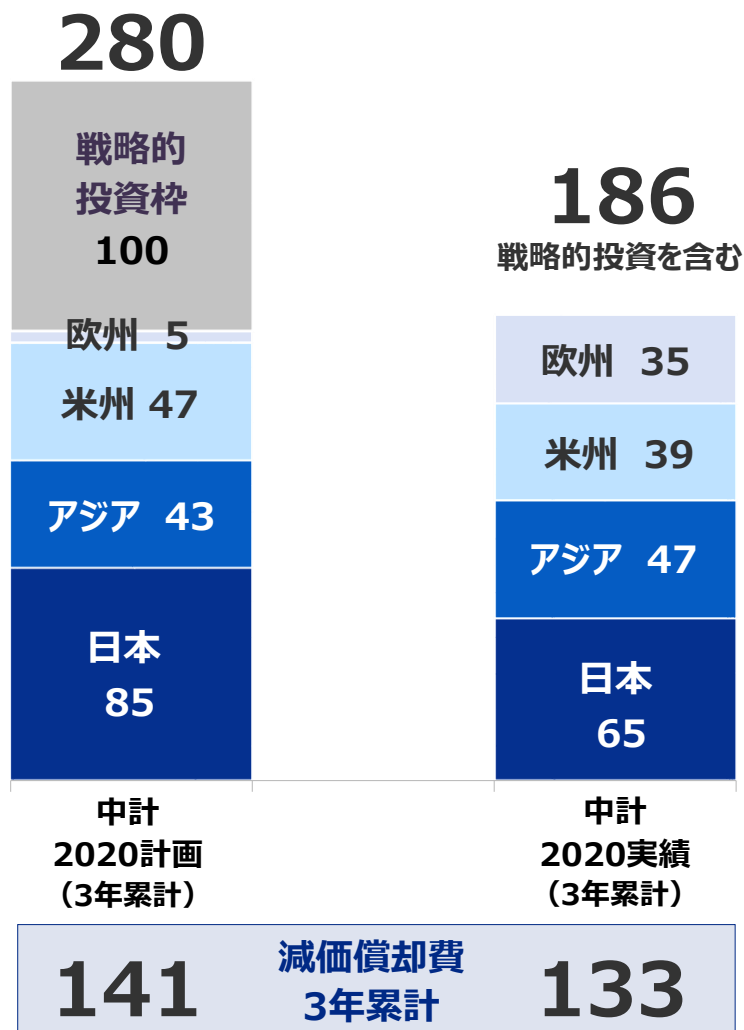


設備投資比較

※非連結含む

地域別投資内訳

(単位：億円)



中計2020計画時

設備投資計画：180 億円

戦略的投資枠：100 億円*

総投資額：280 億円

*成長を加速させるための投資枠

戦略的投資

M&A

A. M. Ramp & Co. GmbH
(通称RUCO 社<独>)

新規市場への進出

SAKATA INX (BANGLADESH)
PRIVATE LTD

2. 中期経営計画2023

CCC- I

SAKATA INX VISION 2030

Create and Innovate, Care for the Earth, Color for Life

あなたと、つくる、価値ある、あした

長期ビジョン戦略の方向性

- 印刷インキ・機能性材料事業の拡大
- 地球環境と地域社会を重視した ESG・サステナビリティの取り組み強化
- 新しい事業領域への挑戦

変革プロジェクト

- グローバル連結経営のさらなる強化
- ステークホルダーとの関係強化
- 人材育成の強化・組織風土の改革

基盤構築

事業拡大収益力強化

長期ビジョン実現へ

中期経営計画2023
CCC- I

中期経営計画2026
CCC- II

中期経営計画2029
CCC- III

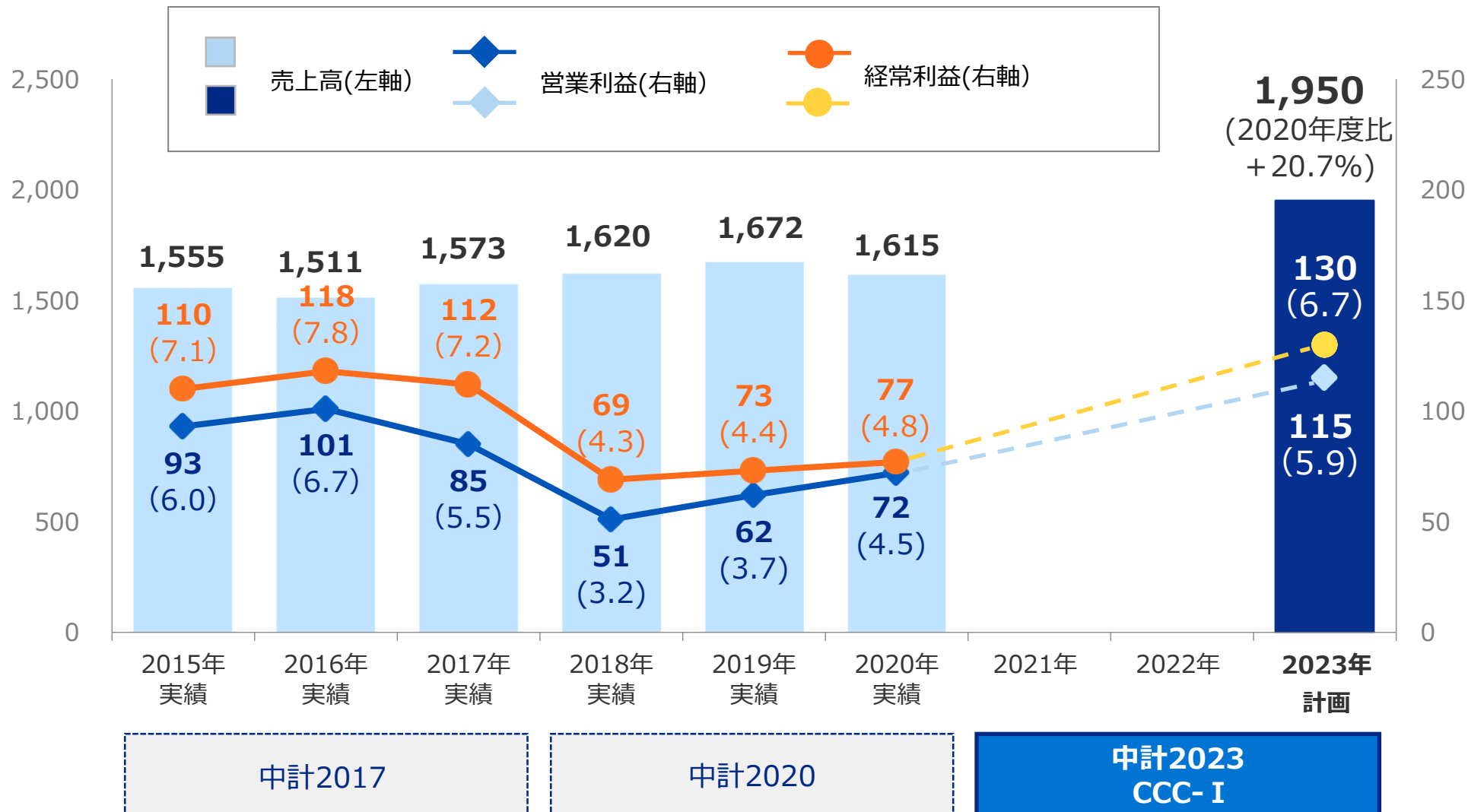
DXの推進、資本コストを意識した経営

2023年

2026年

2029年 2030年

(単位: 億円、%)



※ 営業利益・経常利益の () 内は対売上高比率

※ 2015年は決算期変更により、過去の各社の決算を基礎として、2016年以降の12月期決算と同期間を連結対象として調整した数値です。

セグメント別売上高・営業利益計画

(単位: 億円、%)

売上高	2020年		2023年		2020:2023	
	実績		計画		増減	増減率
印刷インキ・機材 (日本)	480		518		38	7.9
印刷インキ (アジア)	325		450		125	38.5
印刷インキ (米州)	495		535		40	8.1
印刷インキ (欧州)	101		175		74	73.3
機能性材料	118		172		54	45.8
その他	169		171		2	1.2
調整額	△76		△73		3	—
計	1,615		1,950		335	20.7

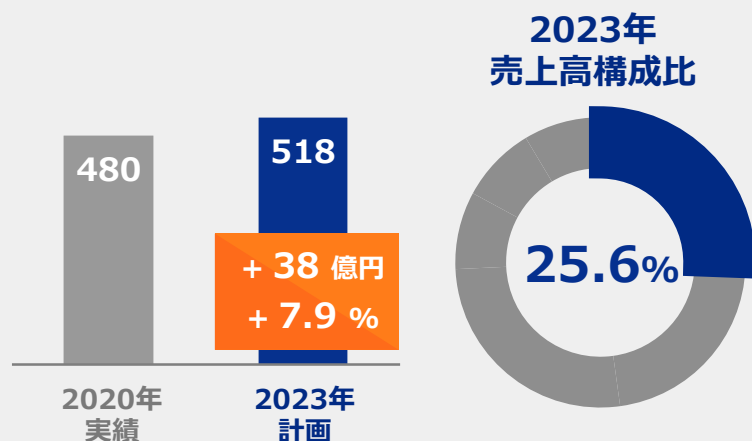
営業利益	2020年		2023年		2020:2023	
	実績	利益率	計画	利益率	増減	増減率
印刷インキ・機材 (日本)	* 12	2.6	18	3.5	6	50.0
印刷インキ (アジア)	24	7.5	29	6.4	5	20.8
印刷インキ (米州)	29	6.0	30	5.6	1	3.4
印刷インキ (欧州)	△4	△4.3	2	1.1	6	—
機能性材料	* 5	4.7	23	13.4	18	4.6倍
その他	1	0.9	6	3.4	5	—
調整額	* 2	—	3	—	1	—
計	72	4.5	115	5.9	43	59.7

* 2021年より、セグメント間の経費配賦基準の見直しをかけたため、2020年実績の営業利益は、新基準で表示しております。このため、2月12日公表しました「2020年12月期決算短信」とは、「印刷インキ・機材 (日本)」、「機能性材料」、「調整額」の数値が異なります。

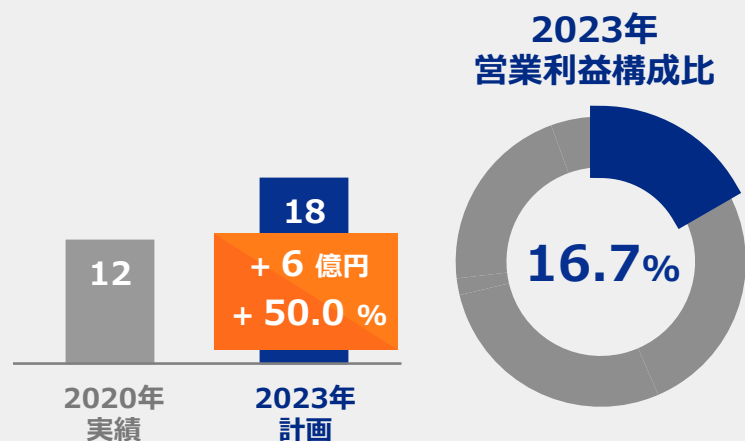
重点施策

- 環境対応・社会的課題への取組み
- 環境配慮型製品(ボタニカルインキ)の積極展開
- 情報メディア事業の効率化
- SDGs対応循環型パッケージ向けインキの開発
- TPM活動および労働安全衛生改善活動の継続と深化

売上高（億円）



営業利益（億円）



重点施策

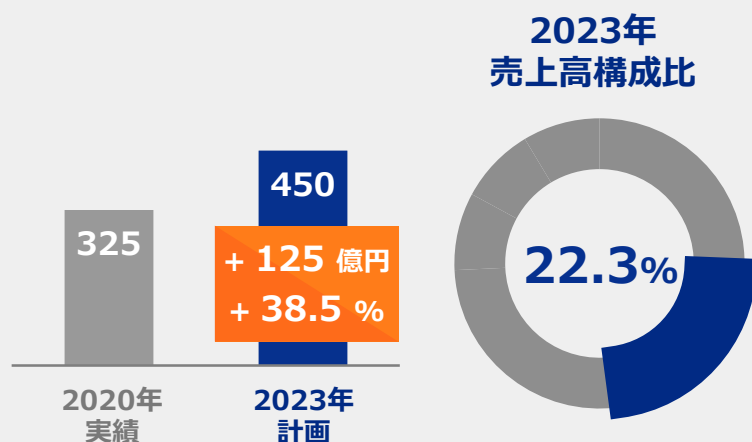
環境配慮型・サステナブル製品の積極展開

新規市場への参入

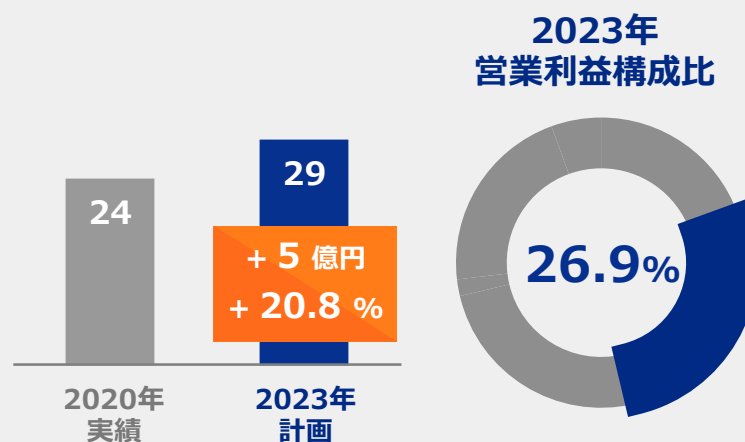
設備投資の推進による販売拡大

グローバル購買による原材料の安定供給

売上高（億円）



営業利益（億円）



重点施策

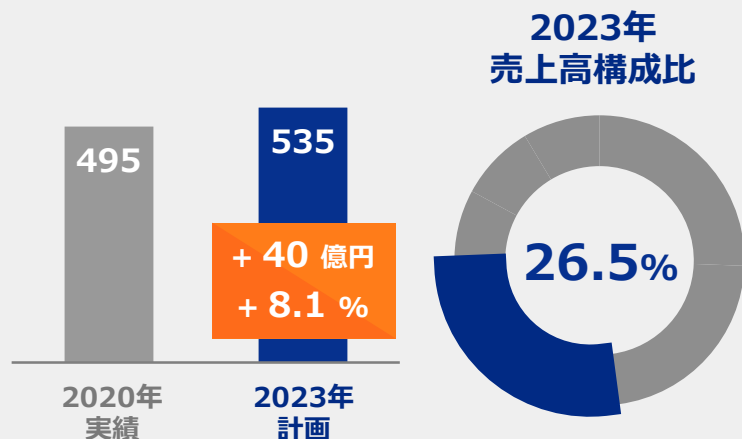
■ 環境配慮型・サステナブル製品の積極展開

■ グローバル顧客への販売強化

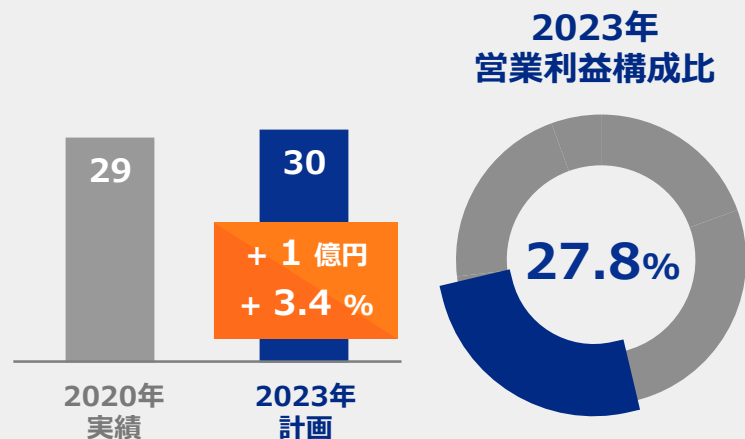
■ 南米市場の販売強化と積極投資

■ 設備投資の推進による販売拡大

売上高（億円）



営業利益（億円）



重点施策

■ 環境配慮型・サステナブル製品の積極展開

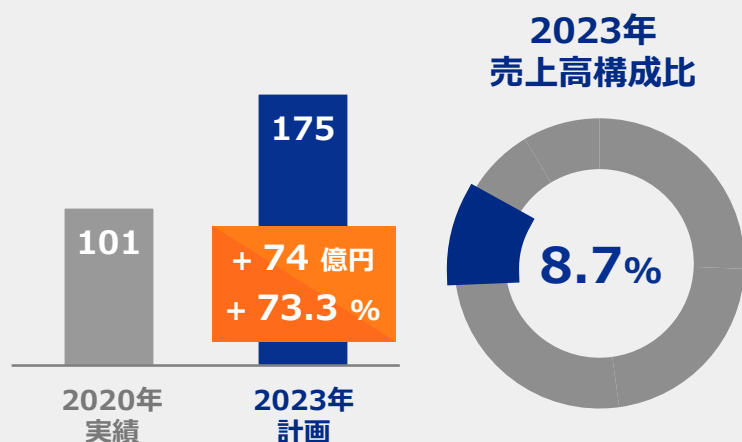
■ グローバル顧客への販売強化

■ 生産拠点の再構築による収益性向上

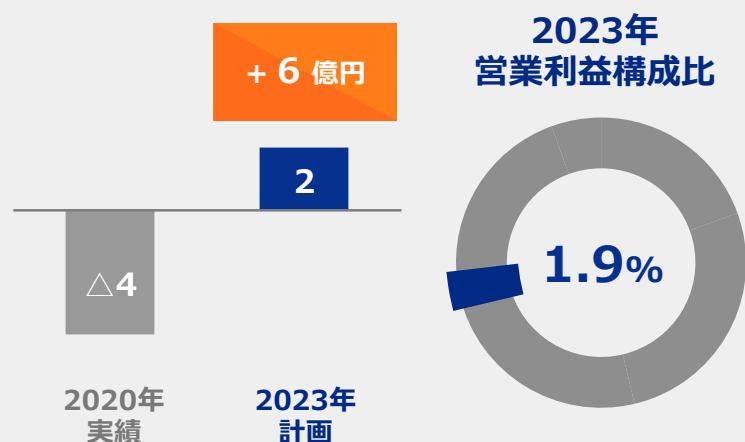
■ 新規市場への参入

■ 設備投資の推進による販売拡大

売上高（億円）



営業利益（億円）



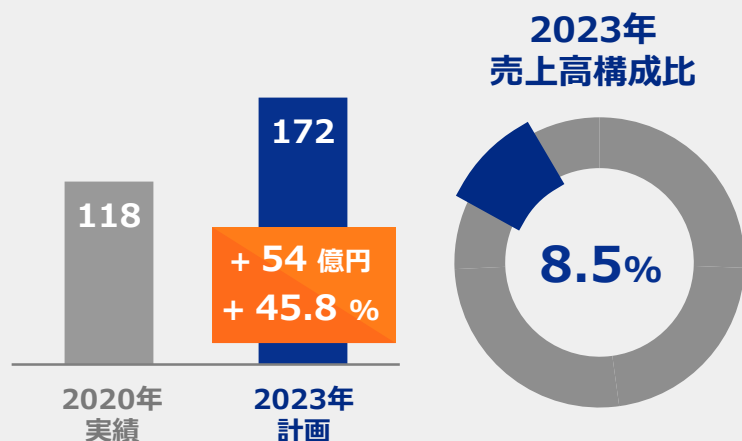
重点施策

社会トレンドを捉えた高付加価値製品への展開

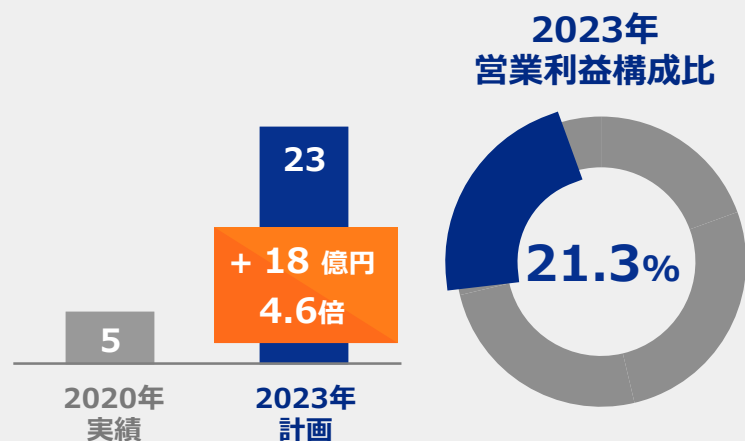
- ・インクジェット：衣食住を中心とした成長する産業分野への展開
- ・高付加価値フラットパネルディスプレイ材料への展開
- ・タッチパネル市場等周辺分野における機能性製品の事業拡大

成長する市場での機能性材料製品の現地生産化

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



新規事業

戦略キーワード：安全安心、便利快適、健康維持、低炭素社会、サステナビリティ

注力分野

環境・
バイオケミカル

エナジーケミカル

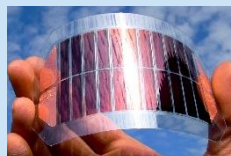
エレクトロニクス
ケミカル

オプトケミカル

ターゲット領域



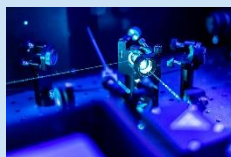
ヘルスケア



太陽電池



IoT/5G



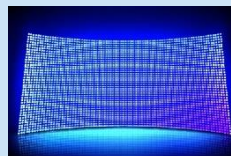
オプト (光学)



パッケージ



モビリティ



ディスプレイ

戦略製品

- バイオマス系機能性材料
- CO₂吸着材料
- 半導体・増感材料
- 導電性材料
- 絶縁性材料
- 導電性接合材料
- 低誘電材料
- センサー材料
- 屈折率調整材料
- LED封止材料

事業化に向けたオープンイノベーションを推進

ケミカルリサイクル推進における社会貢献



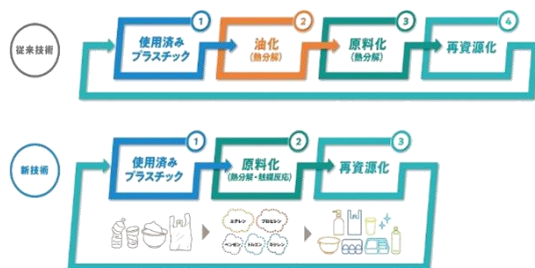
社会課題

- 海洋プラスチック汚染
- CO₂排出量の増加



使用済みプラスチックを原料として
様々なプラスチックに効率よく再生

再資源化技術



RPJ 参画企業



プラスチックバリューチェーンの一員として
使用済みプラスチックの再資源化を推進し、
持続可能な社会の実現に向けて貢献して参ります。

エレクトロニクスケミカル事業における協業体制

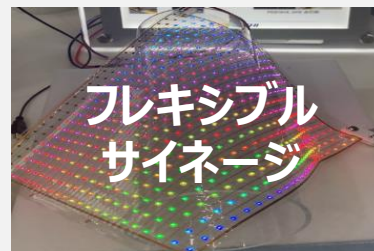


協業による革新的な要素を提供



顧客

ターゲット領域



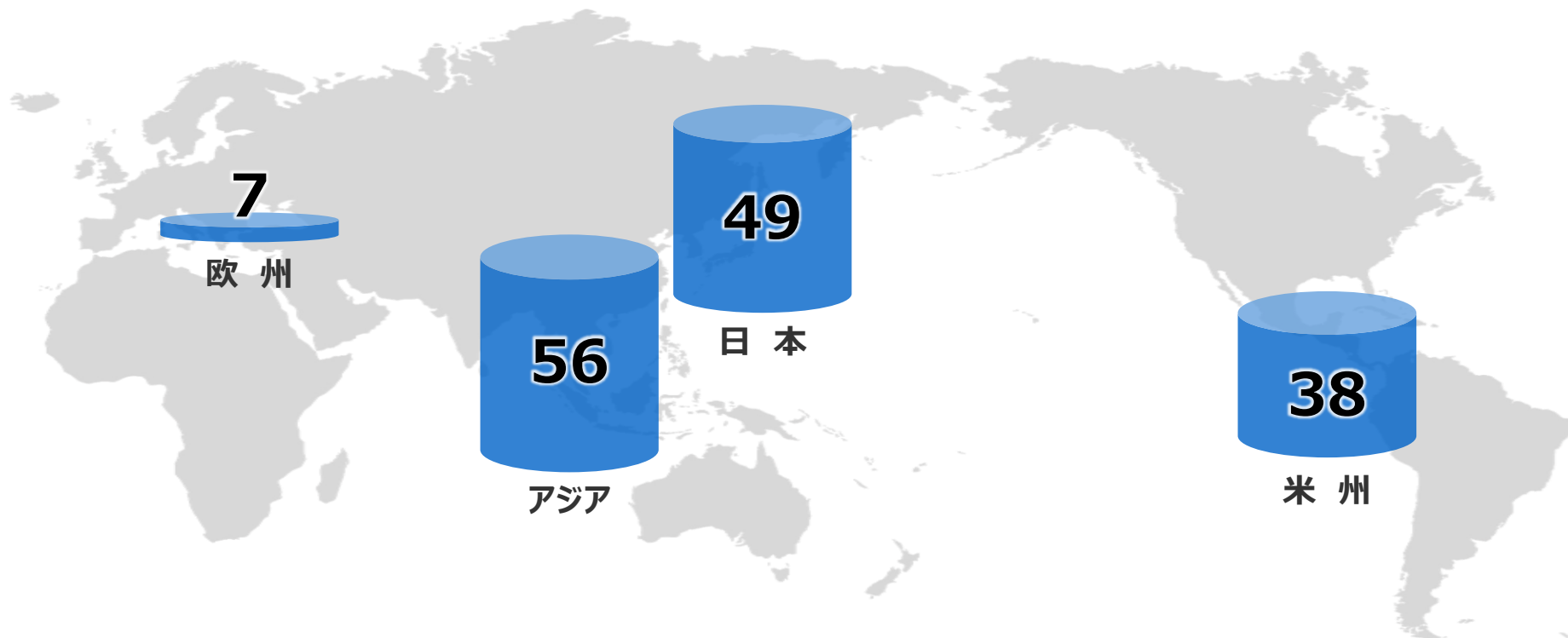
新しい素材、新しい工法で
世の中にまだない“もの”を
創り出す

関係企業間の特長を活かし、シナジー創出へ。
プリントドエレクトロニクスプロセスにおいて、薄型、
小型、軽量化された電子関連部品の社会実装を
通じて、安心、且つ便利な社会を目指します。

地域別投資計画

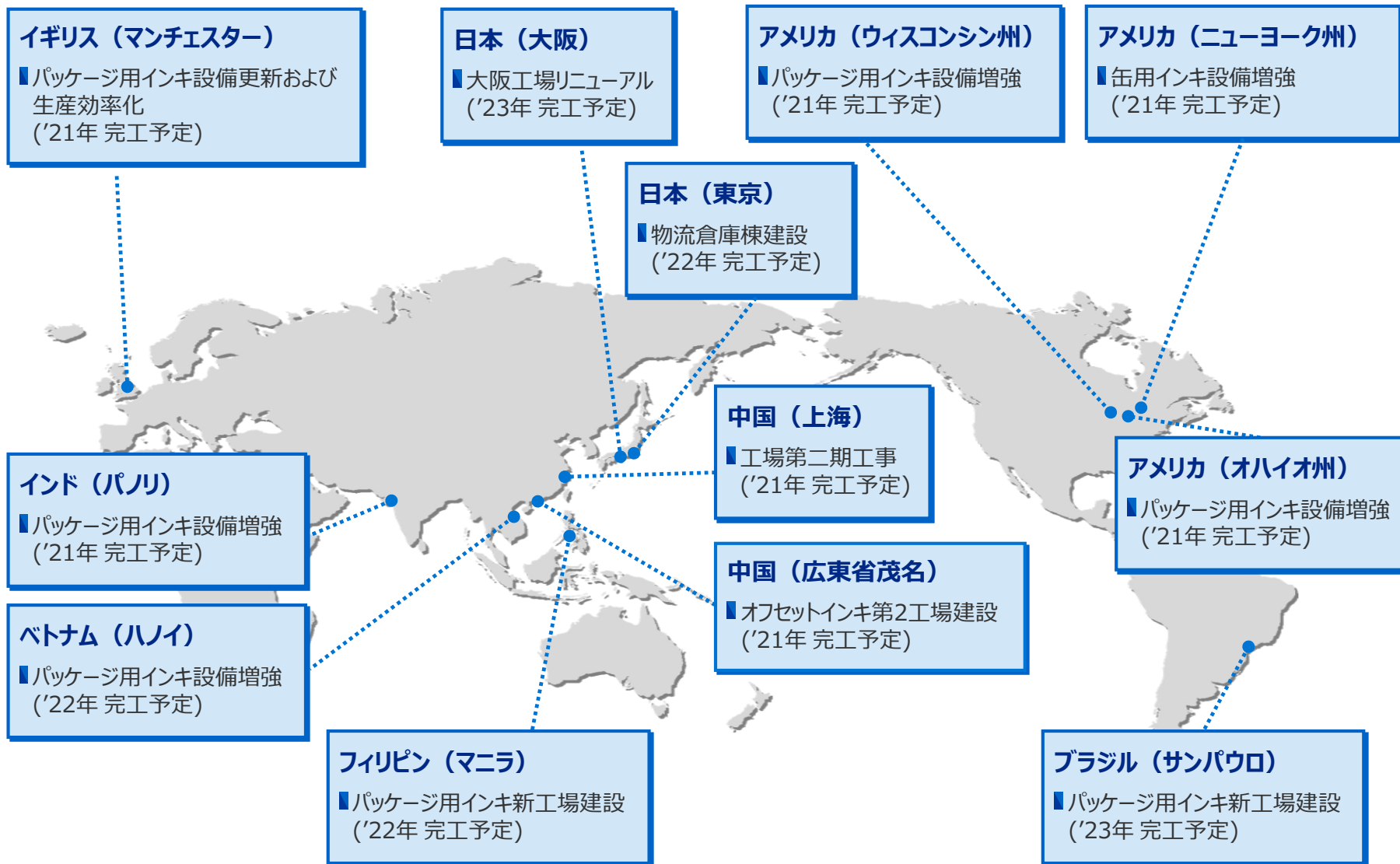
(3年累計)

(単位：億円)



地域	日本	アジア	米州	欧州	設備投資計	戦略的投資	合計	減価償却費
中計3年累計	49	56	38	7	150	150	300	155

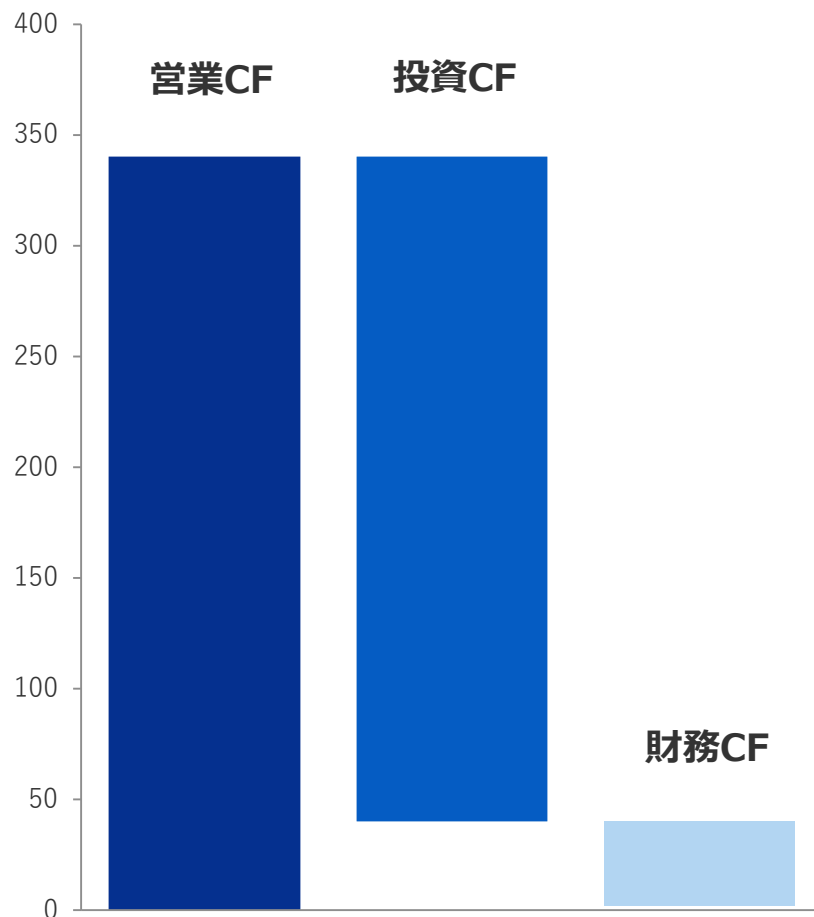
主要な設備投資計画



キャッシュ・フロー計画（3年累計）

積極的な投資を図り更なる成長に結びつける

(単位:億円)



設備投資計画 : 150億円

戦略的投資枠 : **150億円***

総投資額 : **300億円**

*成長を加速させるための投資枠

連結計画値および経営指標

2023年 連結計画値

■ 売上高	1,950 億円
■ 営業利益	115 億円
■ 経常利益	130 億円

2023年 連結経営指標

■ ROE	▶	10 %以上
-------	---	--------

SAKATA INX...

Visual Communication Technology

